

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

関東学院 大学 望月 ゼミ A パート

1

部門番号 部門名 日本経済論

テーマ 2020年東京オリンピック経済効果の波及

サブテーマ 過去のオリンピックの歴史と比較

趣意文

現在、日本では東京オリンピックに向けて様々な関心が向けられている。そこで2020年に東京オリンピックが開催することにより、経済が発展されることが予想されるが実際どのくらいの変化が出るのか疑問を持ったので今回のテーマになりました。2020年の経済効果を論じるにあたって、まず、過去のオリンピックの歴史から説明していく。そして、2020年東京オリンピックの経済効果がどれくらい見込まれているのか、開催地での問題点や、その改善点もまた説明していく。最後に2020年東京オリンピックのあり方、経済効果がどのように波及していくのかを論じる。東京という大都市にとって、どのような開発効果を持つのか、また、オリンピック開発都市の繁栄に貢献するのかという2つのことを述べていく。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

神奈川大学

玉井義浩ゼミ

B パート

1

部門番号

部門名 日本経済論

テーマ 日本の若者が被っている不利益

サブテーマ 雇用・教育・年金問題の解決を阻むシルバー民主主義

趣意文

有効求人倍率がバブル期並みに回復するなど、大学新卒者の雇用情勢はほぼ四半世紀ぶりに好転している。しかし、若者を取り巻く経済状況が厳しいという構造的問題は解消しているとは言い難い。たとえば就職氷河期に社会に出た、いわゆる「ロス・ジェネ」世代が雇用から取り残されていることやニート・フリーターの存在、奨学金の返済に苦しむ若者の存在、現行の年金制度の下で若者が年金掛け金の払い損になるという、世代間の不平等の問題などである。これら、若者が不利益を被るような構造的問題を放置することは、若者の消費や教育投資を萎縮させ、消費需要および人的資源の蓄積過程の両面から日本の中長期的な経済成長に悪影響を及ぼす。我々の研究では、現在若者が被っている様々な社会経済的不利益の現状を統計的に明らかにし、上記の構造的問題の解決のための政策を提言した上で、その政策の実現を阻んでいる「シルバー民主主義」と、それを許容している若者自身の「政治的無関心」の実態にメスを入れ、若者の利害を政治に反映させるための選挙制度改革を提言する。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

神奈川 大学 玉井義浩 ゼミ Cパート

1

部門番号 部門名 日本経済論

テーマ 過労死と格差問題の相互作用

サブテーマ 「働き方改革」は問題の解決につながるか？

趣意文

「電通過労死事件」に象徴されるように、過重労働、過労死問題が注目を集めている。しかし、過労死は近年始まった問題ではなく、脳・心臓疾患の労災補償件数は近年減少傾向にあるものの、2000年代には一貫して増え続けていたほか、精神疾患の労災補償件数には減少の兆しが見られない。その中で、「日本海庄や事件」のような訴訟も起きている。これらの問題や一向に改善しないワークライフバランス(WLB)の状況改善のため、政府の「働き方改革実現会議」は2017年3月28日に「働き方改革実行計画」を発表したが、問題の実態や背景にある構造的要因を正確に把握することなくして、真の問題解決には至らない。

過酷な労働が放置されてきた中、非正規雇用の拡大やワーキングプア問題など所得格差も深刻化した。さらに90年代末の金融危機以降、勤労者の実質賃金は減少の一途をたどり、近年は「アベノミクス」による物価上昇に名目賃金の上昇が及んでいない。

過労死問題と格差の拡大とは相互に関連しており、長く続いた不況の中で賃金が下がり続け失業した場合の再就職が困難な中で、労働者が劣悪な労働環境に耐えて働くしかないという状態が長く続いた結果、企業側はそのような労働に甘えるということが常態化してしまったと考えられる。我々の研究では、格差と過労死の実態と両者の関連を計量経済学の分析手法を用いて明らかにし、問題解決のための政策提言を行う。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

神奈川 大学 清水俊裕 ゼミ 清水俊裕 A パート

1

部門番号

部門名 日本経済論

テーマ 日本の労働について

サブテーマ 日本に適した働き方とは

趣意文

現在、日本では『働き方』というものが度々話題になる。政府の提案する「働き方改革」というのもその象徴であろう。

そのため、我々は日本に最も適した働き方を研究している。様々な側面から検討し、より良い働き方を検討する。具体的には正規・非正規労働者の待遇差などといった労働問題に注目し、考察する。また、これからの社会に適した多様な労働形態、海外の労働形態の例なども考慮した上で熟考していく。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

神奈川大学 大学 清水俊裕 ゼミ 清水俊裕 B パート

1

部門番号

部門名

日本経済論

テーマ 農業の再生

サブテーマ 日本農業の成長戦略

趣意文

日本農業は衰退の一途をたどっている。高齢化、後継者不足、耕作放棄地、輸入品との競争による自給率の低下などが問題となっている。

今までに様々な政策が打ち出されてきたがあまり効果は見られなかった。食料の安定供給、自然環境の保全、食糧安全保障などを基盤にした食糧農業農村基本計画は2000年を始めとし5年ごとに見直しがされている。このような農政が打ち出されているにもかかわらず、日本農業の現状は変えられずにいる。過去の農政などを読み解きつつ、日本農業が成長していくためには何が必要かを考えていく。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央 大学 佐藤拓也 ゼミ 格差 パート

1

部門番号

部門名 日本経済論

テーマ 現代日本の所得格差

サブテーマ 日本の格差是正の政策

趣意文

現在、日本で広がる所得格差について研究している。この現象は、少子高齢化や非正規雇用などの大きな社会の動きと連動して起こっていると考えられる。これらの動きはどのように影響を及ぼしているのか、何が原因なのかについて調べている。

原因が明確になったら、この問題を解決するためにどのような政策(あるいは解決策)が適切であるのか、またそれはどのような効果をもたらすのか、一つ一つ吟味していく。

理論的な観点のみならず、それどう我々の生活に影響を及ぼすのかというように具体的な側面からもアプローチをしていきたい。